

■議事概要

事務局から平成 30 年度の実績及び、現計画の見直しの方向性について説明し、委員からの意見を聴取しました。

いただいた意見を参考に、次回以降の計画見直しに向けた審議会において、より具体的な提案を行い、審議することとしています。

●平成 30 年度の実績の結果

令和元年度府中町第 2 次環境基本計画年次報告書（平成 30 年度実績）

※府中町公式ホームページに関係資料として掲載。

●計画改定に向けた方向性

- 初めて計画書を見た住民の方にもわかりやすく、取り組みやすい目標を設定する。
- 指標について、景気動向に左右される「二酸化炭素排出量」等、町の施策以外の要因により変動するものではなく、町の施策によって成果が見えるような指標を設定する。
- 個々の町民や団体の取り組みについても、各主体の行動が成果として見えるようなわかりやすい指標を設定する。

●委員からの意見

【基本方針（第 2 次環境基本計画に定める基本方針、以下同じ）1 「低炭素型のまちづくりの推進」について】

- 世界的に取り組んでいかなければならない SDGs について、町の取組を示すためにも SDGs との対応について記載してはどうか。
- 家庭での太陽光発電やエコカーの購入等、住民個々の取組について積極的に町民に情報提供するようにしてはどうか。
- 現計画の取組を継続するだけでなく、個々の取組が府中町環境基本計画の目指す「心豊かにくらすまち」に向かっているのか検証していく必要がある。
- 例えば防犯灯を白熱灯から LED に変えることでどのくらいの効果があったのかなど、個々の施策と効果を明確にすれば、施策の中の優先順位がわかりやすい。
- 府中町の庁舎からの二酸化炭素排出量について、より安価に電力を調達した結果、契約する電力会社によって大きく変動していることについては理解できる。また災害対応等で普段より長時間電気を使っていたことも要因と思われる。二酸化炭素排出量だけでなく、難しいかもしれないが仕事の量に対する消費電力量という形で情報提供できれば良い。

【基本方針 2 「自然と共生する快適環境の推進」について】

- 小中学校での環境学習、自分たちの町を知るカリキュラムの時間数、環境に関するパンフレットの配布数、企業での緑化活動など、小さなところから数値化し見える化してい

ってはどうか。

- 自分たちの住んでいる町で、保全したい環境もあれば、新しく良い環境として創造したいものもあると思う。そういった住んでいる人の感覚を大切にすれば、より身近なこととして捉えられる。
- 大きなマンションなど新しいものができるときには必ず何らかの住みにくくなる要素がある。今までと違うことが起きると、どうしても良いところではなく悪いところに目が向いてしまいがちだ。そういった時にどうすれば周辺と理解しあえるかを探る必要がある。
- ごみの収集日に町内のごみを拾って歩いていると、たばこの吸い殻やビニールがたくさん落ちている。税金を考えると全ての対策を税金で賄うのは難しいので、ボランティアでできることはやっていただく方法も考えながら新たなまちづくりをしてみてもどうか。

【基本方針 3 「資源循環による環境負荷の低減」について】

- 町内会でアルミ缶や新聞などの有価物を回収しているところもあり、町内会の財源の一つとなっている。集計するのは大変だろうが、この売り上げを公表すれば、自分のところも取り組もうという町内会が増えるのではないかと思う。
- 大きなマンションなどを使ってどうすればごみの減量化が図れるかモデル事業を行い、それを全町に展開するといった手法を使ってはどうか。
- 事業ごみについて、総量ではなく、業種や規模毎に、各事業者が他と比較できる形で情報提供したほうが良いと思う。さらに売り上げや利益に繋がったというデータがあればなお良い。
- 町で何か事業をしようとする、予算の関係で限界があるのであれば、町民の方が個々に行っている素晴らしい取り組みを拾い出して広報することで皆に広まれば少しずつでも変わってくると思う。

【基本方針 4 「協働型環境づくりの推進」について】

- 団体数を増やすことも良いことだが、美化清掃や環境学習の支援といった各団体の活動内容と、それがこの計画のどの部分に貢献されているのかを紹介していくことも必要だ。
- 町の「して欲しいこと」と、町民、団体の「町にも協力して欲しいこと」との条件が合致する必要がある。町の補助金だけでなく、例えば町は企業や財団が行っている助成の仕組みを調べて情報提供し、役所の得意分野である申請書類の書き方のお手伝いをするといいことも必要だと思う。